

第 54 回宇宙科学技術連合講演会オーガナイズドセッション企画

1. セッション名：

商業有人宇宙飛行～宇宙産業の裾野拡大を目指して～

2. オーガナイザ：

スペースフロンティアファンデーション アジア圏代表 大貫美鈴

3. セッションの概要（目的・意義・内容など）

宇宙商業化が今までにない勢いで進みつつあります。その中でも、宇宙旅行を含む新たな市場を創出する可能性があるとして、商業有人宇宙飛行が注目されています。米国ではスペースシャトル退役後の国際宇宙ステーションへのクルーの往還を民間企業にまかせるなど、現在、ロシアのソユーズが独占している商業有人宇宙飛行への参入を狙っています。また、NASA が米フューロン社で実施した市場調査によると、オービタルとサブオービタル宇宙旅行で近い将来年間 1000 億円の市場が展望されています。さらに、軌道上の拠点、国際宇宙ステーションの商業利用、宇宙ホテルや宇宙工場などの商業宇宙プラットフォーム建設に向けた取り組みも出てきています。

一方、ヴァージンギャラクティック社が運行するスペースシップ 2 の試験飛行が開始されるなど、サブオービタル宇宙飛行の開発も進められています。オービタル有人宇宙飛行と比較して 2 桁のコストの違いが宇宙旅行市場を飛躍的に拡大すると期待され、また、宇宙旅行に加えて、無重力実験、リモートセンシング、地球観測、2 段ロケットを空中発射することによる小型衛星打ち上げなどさまざまな商業利用が計画されています。離発着する商業スペースポートも不可欠であり、地球上のどこにでも 2 時間以内で行ける 2 地点間宇宙飛行も見込み、各国で商業スペースポート開発に向けた取り組みも活発化してきています。

このようにオービタルやサブオービタル商業有人宇宙飛行機会の利用や国際宇宙ステーション、宇宙プラットフォームを基点に創出される新たな市場を獲得し、宇宙産業の裾野の拡大が期待されている中、当パネルディスカッションでは、日本における商業有人宇宙飛行の潜在需要、可能性、課題などについての議論を行います。

4. セッション形式と構成、発表時間、件数

- ・パネルディスカッション（100 分）
- ・コーディネータ（OS オーガナイザーが担当）からパネルディスカッションの主旨と商業有人宇宙飛行の現状について紹介（10 分）

- 6名のパネリストが商業有人宇宙飛行についての計画や取り組み、展望について説明
(各10分、計60分)
- 商業有人宇宙飛行の潜在需要、可能性、課題などについての議論(30分)
*フロアからの意見や質問も含む

5. 個別発表課題と発表者、所属、アブストラクト等のプログラム

- 1) クラブツーリズム株式会社宇宙旅行担当部長浅川恵司氏(宇宙旅行の販売)
- 2) HASTIC 理事長伊藤献一氏(商業スペースポート)
- 3) 有人宇宙システム株式会社総務企画部課長檜山八潮氏(有人宇宙開発における運用・利用、宇宙ビジネス)
- 4) JAXA 宇宙科学研究本部宇宙輸送工学研究系羽生宏人氏
- 5) 小僧 com 株式会社代表取締役会長平松 庚三様(宇宙旅行の申込者)
- 6) 宇宙科学ジャーナリスト松浦晋也様

6. その他(一般講演者の追加を受け入れるか、実行委員会への要望、等)

- 当OS企画はパネルディスカッションです。そのため各登壇者からのプレプリントがないこと、ご了承願います。